

# 日興五大陸債券ファンド（毎月分配型）

追加型投信／海外／債券／インデックス型

## 交付運用報告書

第115期（決算日2015年12月16日） 第116期（決算日2016年1月18日） 第117期（決算日2016年2月16日）  
第118期（決算日2016年3月16日） 第119期（決算日2016年4月18日） 第120期（決算日2016年5月16日）

作成対象期間（2015年11月17日～2016年5月16日）

第120期末（2016年5月16日）	
基準価額	8,749円
純資産総額	77,014百万円
第115期～第120期	
騰落率	△6.5%
分配金（税込み）合計	150円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>  
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興五大陸債券ファンド（毎月分配型）」は、2016年5月16日に第120期の決算を行ないました。

当ファンドは、先進国債券および新興国債券に実質的な投資を行ない、先進国債券指数と新興国債券指数を合成した指数の動きに連動する投資成果をめざして運用を行なっております。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

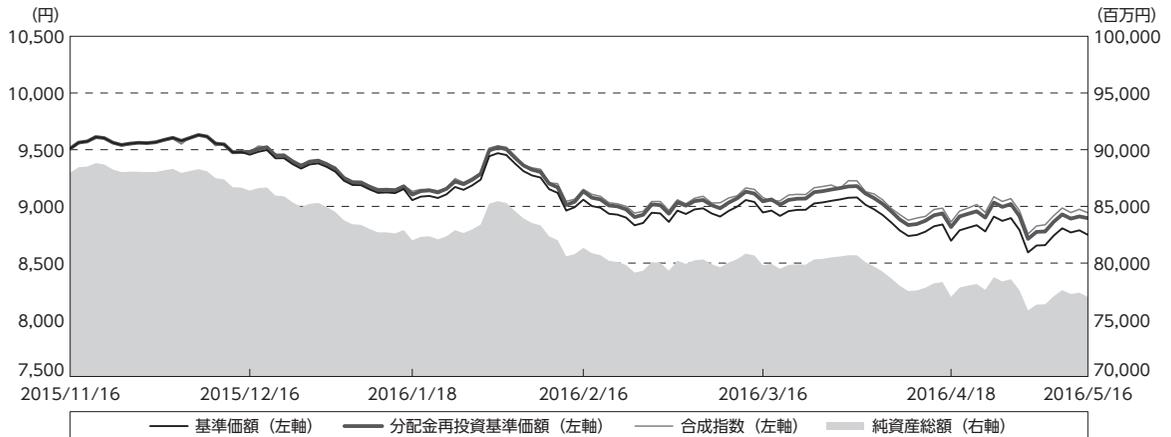
コールセンター 電話番号：0120-86-2514  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2015年11月17日～2016年5月16日)



第115期首：9,510円

第120期末：8,749円 (既払分配金 (税込み)：150円)

騰落率：△6.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および合成指数は、作成期首 (2015年11月16日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 合成指数は当ファンドのベンチマークです。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、先進国債券および新興国債券に実質的な投資を行ない、先進国債券指数「シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)」80%と新興国債券指数「J Pモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス (円ヘッジなし・円ベース)」20%を合成した指数の動きに連動する投資成果をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

### <値上がり要因>

以下の要因による「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値上がり。

- ・期間の前半にかけて、世界経済の減速懸念などから、投資家による国債など安全資産への逃避需要が強まったこと。
- ・期間末にかけて、米国の追加利上げ観測が後退したこと。

以下の要因による「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値上がり。

- ・原油など資源価格の上昇を受けて資源国財政の改善期待が高まったこと（2016年1月下旬～期間末）。
- ・日本や欧州において導入されたマイナス金利政策などを背景に、相対的に利回りが高い新興国債券に対する買い需要が強まったこと。
- ・原油価格の底打ちや利上げペースの遅れを受けた米国株高により投資家のリスク回避姿勢が緩和したこと（2016年1月下旬～期間末）。

### <値下がり要因>

以下の要因による「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値下がり。

- ・2015年12月にかけて、米国連邦準備制度理事会（F R B）による利上げ観測が強まったことや、米国連邦公開市場委員会（F O M C）において利上げが実施されたこと。
- ・欧州中央銀行（E C B）による追加金融緩和策の内容が投資家の失望を誘ったこと。
- ・投資家のリスク回避の円買い需要などを背景に、円高／アメリカドル安、円高／ユーロ安が進行したこと。

以下の要因による「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」の基準価額の値下がり。

- ・原油価格の下落を背景に産油国財政の悪化懸念が強まったこと（期間の初め～2016年1月中旬）。
- ・新興国通貨の軟調な展開などを受けて新興国経済の先行き懸念が強まったこと（期間の初め～2016年1月中旬）。
- ・円高／アメリカドル安が進行したこと。

## 1 万口当たりの費用明細

(2015年11月17日～2016年5月16日)

項 目	第115期～第120期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 49	% 0.537	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(22)	(0.242)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(25)	(0.269)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	( 2)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	1	0.016	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（保管費用）	( 1)	(0.010)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	( 0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用）	( 0)	(0.003)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	50	0.553	
作成期間の平均基準価額は、9,192円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

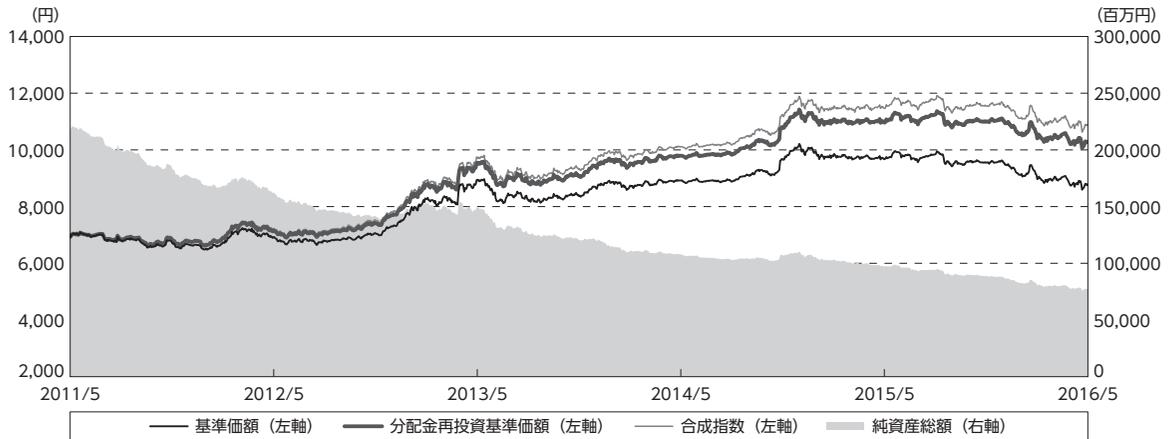
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2011年5月16日～2016年5月16日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および合成指数は、2011年5月16日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2011年5月16日 決算日	2012年5月16日 決算日	2013年5月16日 決算日	2014年5月16日 決算日	2015年5月18日 決算日	2016年5月16日 決算日
基準価額 (円)	6,928	6,870	8,888	8,879	9,749	8,749
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	240	240	245	300	300
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.7	33.6	2.8	13.3	△ 7.3
合成指数騰落率 (%)	—	3.8	34.8	4.1	14.8	△ 6.4
純資産総額 (百万円)	218,060	160,561	147,572	107,049	97,748	77,014

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 合成指数は当ファンドのベンチマークです。

## 投資環境

(2015年11月17日～2016年5月16日)

## (先進国債券市況)

先進国の債券市場では、期間の初めと比べて、米国、英国、ドイツ、イタリアなどの10年国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。

期間の初めから2015年12月にかけては、F R Bによる利上げ観測や12月のF O M Cにおける利上げの決定、E C Bによる追加金融緩和策の内容が投資家の失望を誘ったことなどから、各国の国債利回りは概して上昇（債券価格は下落）しました。2016年1月から2月上旬にかけては、原油安の進行や、中国における市場予想を下回る内容の経済指標の発表などを受けた世界経済の減速懸念を背景に、投資家による安全資産への逃避需要が強まったことなどから、各国の国債利回りは総じて低下しました。2月中旬から期間末にかけては、原油価格の上昇などを受けた投資家による安全資産への逃避需要の後退や、E C Bによる追加金融緩和策の内容などを受けたユーロ圏国債の需給悪化懸念などが国債利回りの上昇要因となった一方で、F R B議長により追加利上げに慎重な見解が示唆されたことや、米国の市場予想を下回る内容の経済指標の発表などが国債利回りの低下要因となり、各国の国債利回りは一進一退で推移しました。

## (新興国債券市況)

新興国債券指数は、期間の初めから2016年1月中旬にかけては、米国における市場予想を上回る雇用統計の発表などを受けた利上げの実施や米国長期金利の上昇、原油価格の下落を背景とする産油国の財政悪化懸念、新興国通貨の軟調な展開などを受けた新興国経済の先行き懸念の高まりなどから、新興国債券指数は下落しました。1月下旬から期間末にかけては、F R B要人の発言などを受けて米国の追加利上げ観測が強まる局面では、新興国債券指数は軟調な展開となったものの、原油など資源価格の上昇を受けた資源国財政の改善期待や、日本や欧州で導入されたマイナス金利政策などにより相対的に利回りが高い新興国債券に対する投資家による買い需要の強まりや米国株式の上昇などを受けた投資家によるリスク回避姿勢の緩和などから、新興国債券指数は上昇しました。

## (為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移



円／ユーロの推移



**当ファンドのポートフォリオ**

（2015年11月17日～2016年5月16日）

**（当ファンド）**

当ファンドは、信託財産の純資産総額の80%程度を「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券、20%程度を「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券に投資し、運用を行ないました。

**（海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド）**

債券のリスクコントロールモデルによりベンチマークが採用している国の債券の中からポートフォリオを構築し、運用を行ないました。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、ポートフォリオの見直しを行なうとともに、債券の組入比率を高位に維持することで、ベンチマークとの連動性を保つよう努めました。

**（海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド）**

債券のリスクコントロールモデルを使用して、ベンチマーク採用国の銘柄でポートフォリオを構築しました。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、毎月ポートフォリオの見直しを行なうとともに、債券の組入比率を高位に維持することで、ベンチマークとの連動性を保つよう努めました。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

（2015年11月17日～2016年5月16日）

期間中における基準価額は、6.5%の値下がりとなり、ベンチマークである「合成指数」の下落率6.0%を概ね0.5%下回ることとなりました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

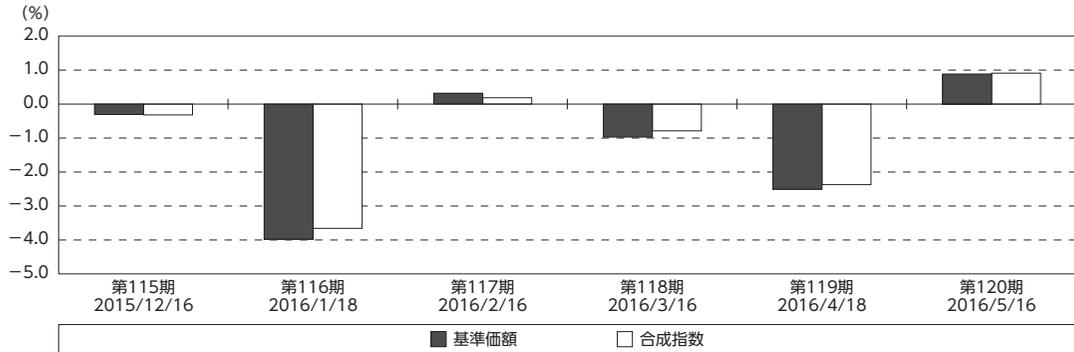
**<プラス要因>**

- ・銘柄選択による効果。

**<マイナス要因>**

- ・債券および為替取引に関する諸費用。
- ・外国口座の管理費用。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 合成指数は当ファンドのベンチマークです。

## 分配金

(2015年11月17日～2016年5月16日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第115期	第116期	第117期	第118期	第119期	第120期
	2015年11月17日 ～2015年12月16日	2015年12月17日 ～2016年1月18日	2016年1月19日 ～2016年2月16日	2016年2月17日 ～2016年3月16日	2016年3月17日 ～2016年4月18日	2016年4月19日 ～2016年5月16日
当期分配金	25	25	25	25	25	25
(対基準価額比率)	0.264%	0.275%	0.275%	0.279%	0.287%	0.285%
当期の収益	19	22	21	18	20	22
当期の収益以外	5	2	3	6	4	2
翌期繰越分配対象額	514	512	508	501	497	494

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### （当ファンド）

引き続き、原則として信託財産の純資産総額の80%程度を「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券、20%程度を「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券に投資を行ない、「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」と「JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）」をそれぞれ80%と20%の配合で合成した指数に連動する投資成果をめざします。

### （海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド）

引き続き、これまでの運用方針を継続します。原則として債券のリスクコントロールモデルを使用してポートフォリオを構築し、ポートフォリオの金利感応度などの属性をベンチマークである「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」と同程度に保ち、連動性を高めるように努めます。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、ポートフォリオの見直しなどを行なうとともに、債券組入比率を高位に維持する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

### （海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド）

引き続き、これまでの運用方針を継続します。原則として債券のリスクコントロールモデルを使用してポートフォリオを構築し、ベンチマークである「JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）」との連動性を高めるように努めます。また、ベンチマーク採用銘柄の入替えなどに対応するために、ポートフォリオの見直しなどを行なうとともに、債券組入比率を高位に維持する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

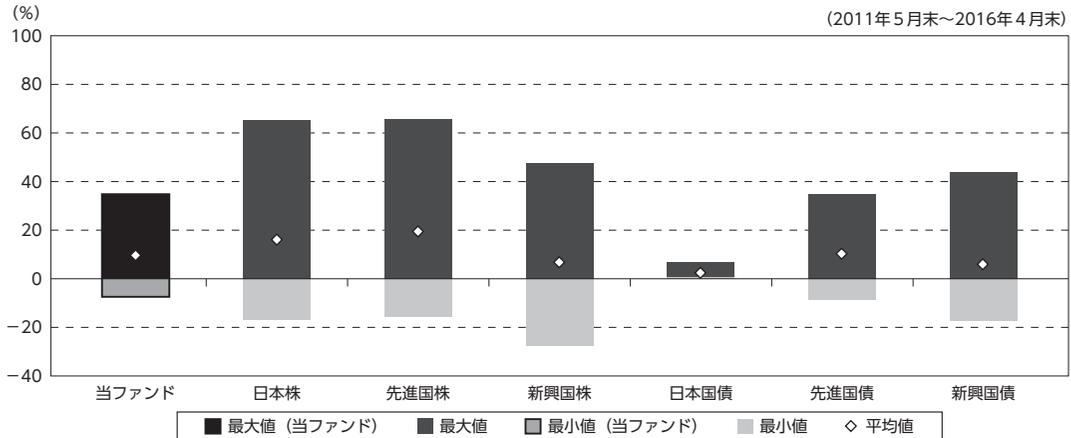
2015年11月17日から2016年5月16日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券／インデックス型	
信託期間	2006年6月12日から原則無期限です。	
運用方針	主として「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券および「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券に投資を行ない、「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」と「J Pモルガン・エマーシング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）」をそれぞれ80%と20%の配分で合成した指数に連動する投資成果をめざします。	
主要投資対象	日興五大陸債券ファンド（毎月分配型）	「海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券および「海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	内外の公社債を主要投資対象とします。
	海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	新興国の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	先進国債券の運用は、主として日本を除く先進国の債券に投資し、シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）の動きに連動する投資成果をめざします。新興国債券の運用は、主として新興国の債券に投資し、J Pモルガン・エマーシング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ヘッジなし・円ベース）の動きに連動する投資成果をめざします。	
分配方針	第1計算期から第2計算期までは収益分配を行ないません。第3計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。ただし、基準価額水準などを勘案し、上記安定分配相当額のほか、委託者が決定する額を付加して分配を行なう場合があります。	

## （参考情報）

### ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	34.8	65.0	65.7	47.4	6.7	34.9	43.7
最小値	△7.4	△17.0	△15.6	△27.4	0.4	△8.6	△17.4
平均値	9.7	16.1	19.5	6.8	2.5	10.3	6.0

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年5月から2016年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

#### 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

#### 当ファンドのベンチマークについて

##### ●合成指数

合成指数は、投資先の親投資信託のそれぞれのベンチマークを基本投資比率で合成して算出しています。

##### 指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2016年5月16日現在)

## ○組入上位ファンド

銘柄名	第120期末
	%
海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	79.9
海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド	20.1
組入銘柄数	2銘柄

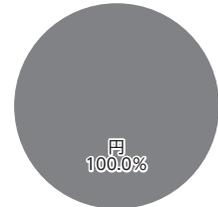
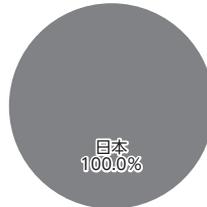
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

## ○資産別配分

## ○国別配分

## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## 純資産等

項目	第115期末	第116期末	第117期末	第118期末	第119期末	第120期末
	2015年12月16日	2016年1月18日	2016年2月16日	2016年3月16日	2016年4月18日	2016年5月16日
純資産総額	86,392,327,058円	82,005,370,193円	81,348,346,905円	79,800,133,544円	77,022,261,103円	77,014,549,834円
受益権総口数	91,359,109,537口	90,567,414,369口	89,799,026,805口	89,199,696,061口	88,562,379,310口	88,024,373,544口
1万口当たり基準価額	9,456円	9,055円	9,059円	8,946円	8,697円	8,749円

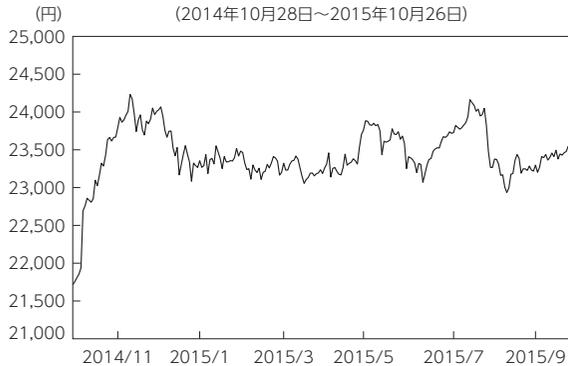
(注) 当作成期間（第115期～第120期）中における追加設定元本額は516,425,298円、同解約元本額は5,003,446,498円です。

## 組入上位ファンドの概要

## 海外債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド

## 【基準価額の推移】

## 【1万口当たりの費用明細】



(2014年10月28日～2015年10月26日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用	3	0.013
( 保 管 費 用 )	(3)	(0.013)
( そ の 他 )	(0)	(0.000)
合 計	3	0.013

期中の平均基準価額は、23,397円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 【組入上位10銘柄】

(2015年10月26日現在)

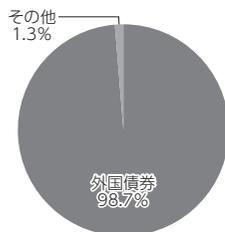
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 ( 地 域 )	比 率
					%
1	US TREASURY N/B 8% 2021/11/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	1.1
2	US TREASURY N/B 3.625% 2021/2/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	1.0
3	US TREASURY N/B 3.625% 2020/2/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	1.0
4	US TREASURY N/B 3.375% 2019/11/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.9
5	US TREASURY N/B 8.75% 2020/8/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.7
6	US TREASURY N/B 3.5% 2020/5/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.7
7	US TREASURY N/B 3.75% 2018/11/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.7
8	US TREASURY N/B 4.625% 2017/2/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
9	US TREASURY N/B 4% 2018/8/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
10	US TREASURY N/B 2% 2020/7/31	国債証券	アメリカドル	アメリカ	0.6
	組入銘柄数		579銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

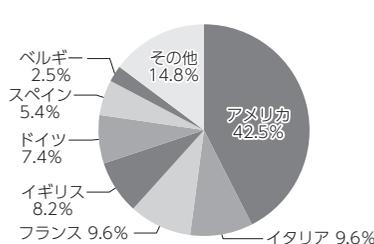
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

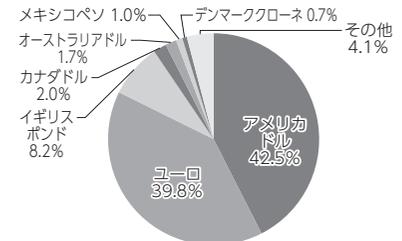
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



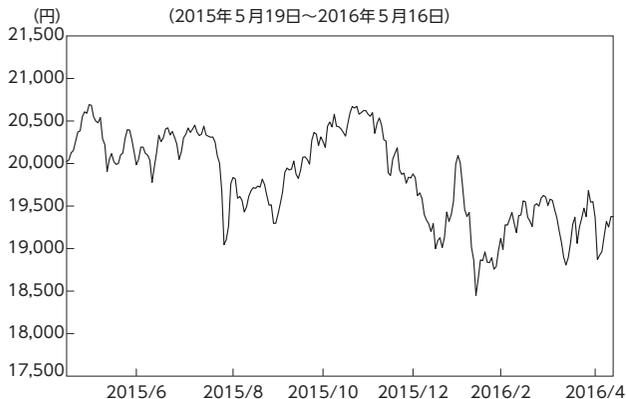
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

## 海外新興国債券インデックス（ヘッジなし）マザーファンド

## 【基準価額の推移】



## 【1万口当たりの費用明細】

(2015年5月19日～2016年5月16日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	9 (9)	0.044 (0.044)
合計	9	0.044

期中の平均基準価額は、19,905円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 【組入上位10銘柄】

(2016年5月16日現在)

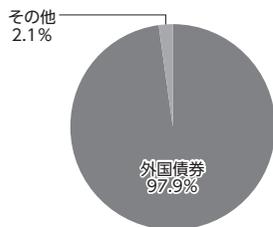
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	RUSSIA FOREIGN BOND 7.5% 2030/3/31	国債証券	アメリカドル	ロシア	4.8
2	UNITED MEXICAN STATES 6.05% 2040/1/11	国債証券	アメリカドル	メキシコ	1.5
3	UNITED MEXICAN STATES 4.75% 2044/3/8	国債証券	アメリカドル	メキシコ	1.4
4	RUSSIA FOREIGN BOND 12.75% 2028/6/24	国債証券	アメリカドル	ロシア	1.4
5	RUSSIA FOREIGN BOND 11% 2018/7/24	国債証券	アメリカドル	ロシア	1.3
6	REPUBLIC OF TURKEY 7.375% 2025/2/5	国債証券	アメリカドル	トルコ	1.3
7	FED REPUBLIC OF BRAZIL 4.875% 2021/1/22	国債証券	アメリカドル	ブラジル	1.2
8	REPUBLIC OF PHILIPPINES 9.5% 2030/2/2	国債証券	アメリカドル	フィリピン	1.1
9	REPUBLIC OF PERU 8.75% 2033/11/21	国債証券	アメリカドル	ペルー	1.1
10	REPUBLIC OF HUNGARY 6.375% 2021/3/29	国債証券	アメリカドル	ハンガリー	1.1
	組入銘柄数			144銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

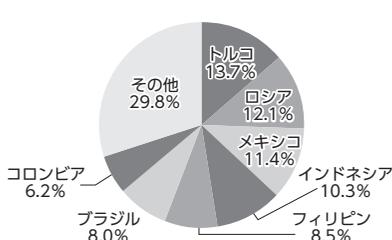
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

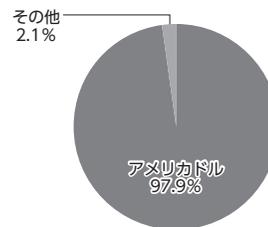
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。